



「朝日イブニングニュース」社内にて



## 卒業後の最初の職場

ESS OB file 1



杉田 敏 (Dis Sec) 1966年卒

NHK ラジオ「実践ビジネス英語」講師 昭和女子大学客員教授  
前株ブラップジャパン代表取締役

今はもう廃刊になってしまいましたが、英字新聞の「朝日イブニングニュース」は1966年に私が青山学院を卒業してから入った最初の職場です。

当時は、5月初旬までには4年生の就職はだいたい決まっていたから、それから卒業するまで、ずっと編集局でアルバイトをしていました。あまり学校には行かず、ほぼ毎日編集局に通って記者会見に出席したり、インタビューを企画したりして、署名記事も書かせてもらっていたのです。考えてみれば、ずいぶんと鷹揚な会社でした。何も知らない未熟な若者に自由にやらせていただいたことに今でも本当に感謝しています。記事を書く以外にも、読者からかかってくる電話の応対もやりました。電話では、例えば「電光掲示板」は英語で何というのですか、といった質問からミス指摘までいろいろありました。

ある時、大阪の大手電気器具メーカーのM社から、前日に載った記事の見出しの意味を教えてくださいと電話がかかってきました。記事にはM Failedという簡単な見出しがついています。電話をかけてきた人は非常に恐縮した声で、「こちらでは英語のできる者を何名か集め、いろいろ辞書も引いたのですが、どうもこれは弊社が「失敗した」としか解釈できないようなのですが…それとも他に何か意味があるのでしょうか」と尋ねられます。記事の内容はM社が海外から何かの賞を受賞したというもので、「失敗」とはまったく関係のないように思われました。

当時の私にはどう答えていいかわからなかったので、編集長に訪ねに行きました。

するとそれはFailedではなく1字違いのHailed（祝福される）の間違いだったのです。翌日、訂正記事が掲載されましたが、1字違いでもまったく逆の意味になるので、恐ろしいと思いました。

最初の年の12月にはボーナスまでいただきました。どうやら私がほぼ毎日きちんと出社するので途中で正社員になっていたらしいのです。初任給が2万円弱の時代に8万円近いボーナスをもらいましたが、全額を親に渡して、生まれて初めて親孝行らしいことができました。

当時は仕事以外に、上司が翻訳のアルバイトを世話してくれました。これがすごくいいお金になったのです。入社してから2年目以降からはほぼコンスタントに毎月20万円ほどを翻訳で稼いでいました。給料の約10倍です。日本語の原稿を横目で見ながら、マニュアルのタイプライターを使って、どんどん英文をタイプしていくのです。スピードと正確さが要求されます。お金が入ってきたこともよかったけど、とてもいい勉強になりました。